

保育所における乳幼児期の絵本場面に関する発達研究
——保育士への質問紙調査からみる3歳未満クラスの特徴を中心に——

菅井 洋子*

A Developmental Study of Picture-book Reading
with Children at Nursery

Yoko SUGAI

要 旨

乳児期から絵本に出会う機会が増えてきている現在、乳児の発達との関連からいかに絵本を共同で読み合うのかを解明することは社会的な要請になってきており、乳幼児期の絵本場面研究でも、前言語期である3歳未満の乳児期を検討することは重要な課題であると指摘されている。家庭での乳児期の絵本場面については、「共同注意の指さし」に着目することにより解明されてきている（菅井、2009等）。しかし、保育所における乳児期の絵本場面については、実践報告等はみうけられるが、理論的、体系的な研究はまだなされていないのが現状である。

そこで本研究では、保育所における絵本場面の実態を、保育士への質問紙調査から示し、3歳未満クラスと3歳以上クラスの比較から、とくに3歳未満クラスの特徴を明らかにすることを目的とした。主な結果は次の通りである。①保育所での絵本場面の実態として、家庭とは異なる多様な読み方があり、共同で読み合う相手により、絵本との出会いの時期や頻度等が異なることが示唆された。②絵本場面への参加行動として指さし行動や注意を向け合う対象（絵本の絵、文字、実物）等に、3歳未満クラスと3歳以上クラスの特徴や相違が示された。③複数の子どもたちと読み合う保育所ならではの読書環境構成の工夫等が示された。最後に結果をもとに、保育所における3歳未満クラスの絵本場面の特徴を保育との関連から総合的に考察し、今後の乳児期の絵本場面観察研究への展望を述べた。

キーワード：保育所、3歳未満、絵本、指さし、質問紙調査

*講師 発達心理学・保育学

〔問題・目的〕

乳児期から絵本に出会う機会が増えてきている現在、乳児の発達との関連から、乳児と養育者がいかに一緒に絵本を読んでいるのかを解明することは、社会的な要請になってきている。また、乳幼児期の絵本場面研究においても、3歳未満の乳児期を取り上げ検討することは、緊急の課題であることが指摘されている (Fletcher & Reese, 2005)。

そこで、乳児期の家庭での母子による絵本場면을、乳児と母親と対象の三項関係から成立する「共同注意場面 (Tomasello, 2003: 2008)」と捉え「共同注意の指さし」から解明する縦断研究に取り組んできた (菅井, 2009 等)。1歳半、2歳半、3歳時期にわたる縦断研究の分析結果から、絵本場面で乳児は、前言語期から言語期への発達過程において、指さして頻繁に絵本場面へ参加し、母子で共同活動を展開していることが示された (菅井・秋田・横山・野澤, 2010)。さらに、母子が注意を向け合う対象である指さし対象を検討した結果からは、1歳半、2歳半時期には、絵本の紙面上の挿絵や文字ばかりでなく、絵本の挿絵と類似する周囲の「実物」まで指さし、絵本世界から現実世界にまで注意を向けあい共同活動を展開する興味深い現象が新たにみいだされた。とくに1歳半時期には、遠くの実物のところまで乳児が歩いて移動し、挿絵と実物を交互に指さし喜びを表現しながら、母親と共同活動を楽しむ姿が観察され、母子の共同注意場면을構成する活動空間としての場が拡がることが示された (菅井・秋田・横山・野澤, 2009)。絵本を読む場として活動空間を広く探索しながら、注意を向けあう対象を周囲の実物にまで広げる可能性があることを考慮に入れ、乳児期の読書環境を構成するのは重要なことであると考え。このように、共同注意の指さしに着目することにより、乳児期特有の絵本場面への参加行動や対象を中心とした共同活動、および発達に応じた読書環境構成が解明され、展望が得られてきている。

以上は、家庭での母子による乳児期の絵本場면을検討し導かれたことである。では、乳児が生活する家庭とは異なる場所である「保育所」においては、いつ、どのように絵本と出会い、乳児と保育士と一緒に読み合っているのであろうか。また保育では、環境を構成することの重要性が指摘されているが、絵本をめぐる環境、すなわち読書環境はいかに構成されているのであろうか。

現行の「保育所保育指針」をみると、「絵本」に関しては、領域「言葉」の「ねらい」で「③日常生活に必要な言葉が分かるようになる」とともに、絵本や物語などに親しみ、保育士等や友達と心を通わせる」、「内容」に「絵本や物語などに親しみ、興味を持って聞き、想像する楽しさを味わう。」と記述されている。また、読書環境として直接記述はされていないが、保育環

境に関しては、「保育の環境には、保育士等や子どもなどの人的環境、施設や遊具などの物的環境、更には自然や社会の事象などがある。保育所はこうした人、物、場などの環境が相互に関連し合い、子どもの生活が豊かなものとなるよう（…）計画的に環境を構成し、工夫して保育しなければならない」と記されている（下線は筆者による）。

実際に、保育所で乳児と絵本をいかに読み合っているのかについては、保育士が語ることや実践報告等がなされてきている。しかし、長年、保育所で絵本を読み合うことを実践し続けている保育士の一人である徳永（2009）は、『赤ちゃんとどんな絵本を読もうかな：乳児保育の中の絵本の役割』という著書の中で、絵本が保育のつなぎになっていたり、安易に使われているのではないかと、また困った時の助け船的な存在になっているのではないかと危惧し、絵本が保育の中でどのように位置づいているかが気になる場所である、と指摘している。さらに絵本が、乳児保育の中でどのように位置づけられているのかについては、十分な検討が必要であると述べているが、乳児の発達に応じた保育所での絵本との出会いに関する体系的な研究はなされていないのが現状である。

以上をふまえ、本論文では、共同注意の指さしや指さし対象に着目した家庭での乳児期の絵本場面の結果（菅井、2009 他）をもとに、「保育所での絵本場面」、「保育所での絵本場面への参加行動」、「保育所での読書環境構成」の3つの観点から、保育所における絵本場面の実態を、保育士への質問紙調査から示し、とくに3歳未満クラスの特徴を明らかにすることを目的とする。具体的には、①保育所では集団生活の場であり、誰と読むのかによる相違も考えられるため、読み方別に絵本との出会いの時期等を示し、②保育所での絵本場面への参加行動等について、3歳未満と3歳以上クラスの比較から各々の相違や特徴を捉え、さらに家庭での乳児期の絵本場面で重要な役割を果たしていた「指さし行動」と、実物への指さしによる共同活動を展開するかどうかを左右する子どもが「立ち上がる行動」への対応について検討し、③保育所ならではの読書環境構成について探ることとする。最後に、調査から示された実態をふまえた上で、保育所における3歳未満クラスの絵本場面の特徴を総合的に考察する。

〔方法〕

「保育所での絵本との出会い等に関する調査」として、東京近郊で行われた保育士会の集まりの際に調査回答協力を依頼し、協力が得られた保育士へ調査用紙を配布し、郵送にて全て回収した。調査は、2009年9月、10月に実施した。調査協力者である保育士は、次の通りである。**調査協力者**）東京近郊で勤務している保育士52名。現在所属している保育所（公立30名、私

立22名)。性別(男性保育士2名, 女性保育士50名), 年齢(20代26名, 30代16名, 40代9名, 50代以上1名), 保育歴(平均9年7ヵ月, 1~31年3ヵ月)。現在の担当クラス(3歳未満クラス28名, 3歳以上クラス20名, 担当なし4名)。絵本を読むことの好意度(とても好き21名, 好き29名, 好きでも嫌いでもない1名, 無回答1名)。絵本経験:一緒に読む児(3歳未満児が多い23名, 3歳以上児が多い22名, その他:両方同じ7名)。

質問紙の構成 保育所での絵本場面の実態を明らかにするという本研究の目的を達成するために, 家庭での絵本場面に関する調査や観察の結果(秋田・横山・野澤・菅井, 2005, 菅井・秋田・横山・野澤, 2009; 2010, 菅井, 2009等)を参考に, 以下のI~IIIについて尋ねた。

I. 保育所での絵本場面

保育所では, 複数の保育士や子どもたちが集団で生活しているため, 保育士と子どもが絵本を, 一対一で読み合うだけではない(徳永, 2009等)。そこで読み方別(表1)に, 以下を尋ねた。

表1 保育所での保育士と子どもによる絵本の読み方

絵本の読み方	説明
1. 「1対1」	保育士1人と子ども1人で一緒に読む
2. 「1対多」	保育士1人と子ども複数で一緒に読む
3. 「子同士」	子ども同士で一緒に読む
4. 「子ひとり」	子ども1人で読む

(a) 絵本の読み方(4択:1対1~子ひとり), (b) 絵本を読み始めた時期(10件法:生後すぐ頃から~3歳以降から), (c) 絵本を読む頻度(5件法:毎日~したことはある), (d) 絵本を読む時間(5件法:5分未満~1時間以上)(e) 読むおきまり時間有無(2択:ある・ない), ある場合その時間(記述), (f) 複数児で読む場合の子どもたちの年齢(2択:同年齢, 異年齢), (g) 絵本の選択(3択:子ども, 保育士, その他), (h) 読み始めるきっかけ(3択:子どもに頼まれて読む, 保育士から読む, その他)

II. 保育所での絵本場面への参加行動:3歳未満と3歳以上クラスの比較

1. 絵本場面への子どもたちと保育士の参加行動 現在担当しているクラスで絵本を読んでいる間の子どもの行動と保育士の読み方を尋ねた。(a) 子どもたちの行動:21項目(5件法:とてもよくする~まったくしない), (b) 保育士の読み方:10項目(5件法:とてもよくする~まったくしない)。

2. 指さし行動 子どもと保育士の指さし行動と指さし対象を尋ねた。(a) 子どもの指さし行

- 動有無 (2 択), 指さし行動がみられる場面 (4 択), (b) 保育士の指さし行動有無 (2 択), 指さし行動がみられる場面 (4 択), (c) 絵本場面での子どもの指さし対象 (3 項目: 絵, 文字, 実物, 2 択: ある・ない), (d) 絵本場面での保育士の指さし対象 (3 項目: 絵, 文字, 実物, 2 択: ある・ない), (e) 絵本場面での子どもの指さしで印象的であった出来事 (自由記述)
3. 立ち上がる行動 (実物への指さしとの関連行動) 絵本を読んでいる間の子どもが立ち上がる行動に対する保育士の対応 (自由記述)。
4. 3 歳未満児との絵本場面 保育所で 3 歳未満児と絵本を読むことに関する考え等 (自由記述)。

Ⅲ. 保育所での読書環境構成

保育所での読書環境の工夫と, 読書環境構成の影響による子どもの姿と変化 (自由記述)。

分析) 回収された質問紙の回答をもとに, まず保育所での絵本場面の実態を明らかにするために, I の分析を行い考察する。次に, II の分析を行い保育所での絵本場面への子どもと保育士の参加行動について, 3 歳未満と 3 歳以上クラスの 2 群を比較し, 3 歳未満の絵本場面の特徴を, 考察する。つづいて, III を分析し保育所での読書環境構成を探る。

〔結果と考察 I : 保育所での絵本場面〕

(a) 絵本の読み方: 保育所で絵本を読むときの読み方を尋ねた結果が図 1 である。

結果をみると, 保育所では「1 対多」(48%) で読む場合が多く, 「1 対 1」(21%), 「子ひとり」(17%), 「子同士」(14%) の順であった。保育士と一緒に読む読み方(「1 対多」「1 対 1」69%) が全体の約 7 割を占め, 子どもや子どもたちで読む読み方(「子ひとり」「子同士」31%) よりも多いことが回答から示された。

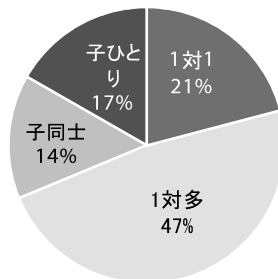


図 1 保育所での絵本の読み方

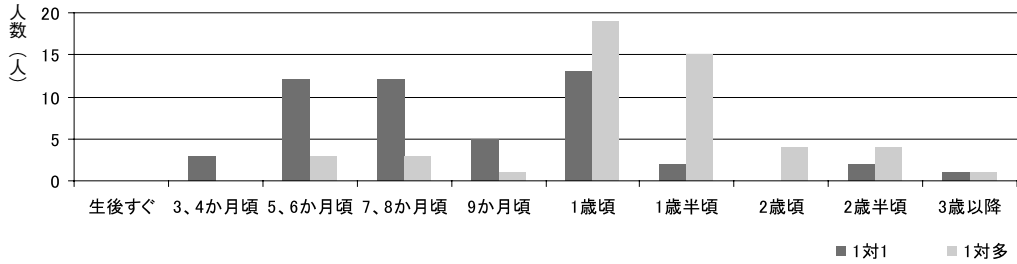


図2 絵本を読み始めた時期（「1対1」「1対多」の場合）

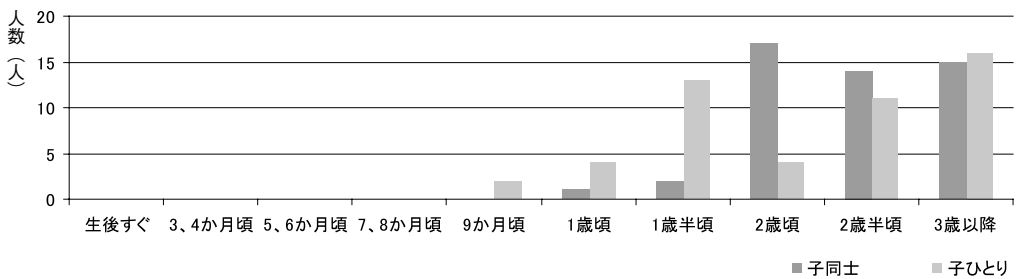


図3 絵本を読み始めた時期（「子同士」「子ひとり」の場合）

(b) 絵本を読み始めた時期：読み方別に、保育所で絵本を読み始めた子どもの年齢時期を尋ねた結果が、図2（「1対1」「1対多」の場合）と図3（「子同士」「子ひとり」の場合）である。

図2から、保育士と一緒に「1対1」で読むことは、3,4カ月頃からみられ、1歳頃までには読み始めることが多くみられるようであり、「1対多」で読むことは、5,6カ月頃からみられ、1歳頃以降に多くみられるようになることが回答から示された。

図3から、「子同士」で読むのは、1歳頃にわずかにみられ始めるようであるが、2歳頃以降に多くなり、「子ひとり」で読むのは、9か月ころからみられるようであるが、1歳半頃、2歳半以降に多くみられ始めることが示された。

保育士と「1対1」で読むことが最も早い時期からみられ、「1対多」で読み始めるようになり、「子ひとり」で読んだり、その後に「子同士」で読み始めるようになるという発達過程が結果から推察される。

(c) 絵本を読む頻度：保育の中で絵本を読む頻度をたずねた結果、保育士と読む「1対1」は、「ほとんど毎日」（28%）が最も多く、「毎日」（26%）、「週に2,3日」（16%）、「週に1日」（14%）、「したことはある」（10%）と続き、「1対多」は、「毎日」（64%）が最も多く、「ほとんど毎日」

保育所における乳幼児期の絵本場面に関する発達研究

(22%), 「週に2, 3日」(2%), 「したことはある」(4%)であった。「子同士」では、「ほとんど毎日」(40%)が最も多く、「毎日」(24%), 「週に1日」(12%), 「週に2, 3日」(6%)と続き、「子ひとり」では、「毎日」(40%)が最も多く、「ほとんど毎日」(34%), 「週に2, 3日」(6%), 「週に1日」(4%)であった。「毎日」と「ほとんど毎日」を合わせ、ほぼ毎日読んでいるのは、「1対多」(86%), 「子ひとり」(74%), 「子同士」(64%), 「1対1」(53%)の順にその比率が高く、読み方により、読む頻度に相違がみられることが窺える。

(d) 絵本を読む時間：一日のうちどのくらいの時間、絵本を読むかを尋ねた結果、保育士と読む「1対1」では、「5～15分」(50%)が最も多く、「5分未満」(30%), 「15～30分」(8%)と続き、「1対多」でも「5～15分」(46%)が最も多く「15～30分」(28%), 「5分未満」(14%), 「30分～1時間」(2%)であった。「子同士」では「5～15分」と「5分未満」(32%)が最も多く、「15～30分」(10%), 「30分～1時間」(6%)と続き、「子ひとり」では「5～15分」(36%)が最も多く、「5分未満」(32%), 「15～30分」(8%), 「30分～1時間」「1時間以上」(4%)であった。全ての読み方で最も多いのは「5～15分」で、「1対多」で読むときが、1日のうちで長い時間読んでいることが結果から窺える。

(e) 読むおさまりの時間：絵本を読むおさまりの時間があるかを尋ねた結果、「1対多」(68%), 「子同士」(66%), 「子ひとり」(26%), 「1対1」(20%)の読み方順に、決まった時間があると回答された。実際にどのような時間であるか、記述を読み方別にまとめたのが、表2である。

表2 読み方別絵本を読むおさまりの時間

絵本を読むおさまりの時間	1対1	1対多	子同士	子ひとり
集まっている時(集まりの会：朝の会、帰りの会) 活動が変わる時(活動と活動の合間、活動の導入) 落ち着かせる時 夕方の縦割り保育の時間		○ ○ ○		○
絵本コーナーを設けた時 着替えの後(午睡あけの着替えの後)			○ ○	○ ○
自由遊びの時(朝夕、室内) 準備している時(机、椅子準備中、食事配膳の待ち時間等) 食事前(おやつ前、給食前、昼食前)	○	○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
延長保育の時 食事の後(おやつ後、pm おやつ後、昼食後) 午睡前(就寝前)	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○

注) ○印はおさまりの時間であることを示す

結果から、全ての読み方で、「延長保育の時」と「食事の後」と「午睡前」に読むことが決まっていると回答された。この時間以外で「1対1」で読むのは「自由遊びの時」であり、「1対多」で読むのは「集まっている時」や「活動が変わる時」、「落ち着かせる時」と、「準備している時」「食事前」であった。「子同士」で読むのは「絵本コーナーを設けた時」「着替えの後」「自由遊びの時」「準備している時」「食事前」で、「子ひとり」で読むのは、「夕方の縦割り保育の時間」と「絵本コーナーを設けた時」「着替えの後」「自由遊びの時」「準備している時」「食事前」であった。読み方により、読む決まった時間に相違がみられることが回答からうかがえる。

(f) 複数児で読む場合の子どもたちの年齢：子どもたちが複数で読む場合、同年齢と異年齢どちらの集団で読むことが多いかを尋ねた結果、「同年齢」で読むことの方が多くと回答された（「1対多」64%、「子同士」70%）。ただし、「異年齢」で読むこともあり、保育士と一緒に読む「1対多」の時の方が異年齢で読む機会が多い傾向が示された（「1対多」26%、「子同士」12%）。

(g) 絵本の選択：絵本を読むときに、絵本を選択することが多いのは子どもか、保育士かを尋ねた結果、「保育士」が選択することが約半数（56%）を占め、「子ども」が選択するのは約3割（32%）であることが示された。「その他」（12%）は、「一対多：保育士、それ以外：ほとんど子ども」「一対多：保育士、一対一：子ども」「クラスに出してある絵本を選ぶのは保育士」「年齢によって違う」「両方」と記されており、読み方や年齢によっても異なることがうかがえる。

(h) 絵本を読み始めるきっかけ：子どもに頼まれて読むのか、保育士から読むのか、どのように絵本を読み始めることが多いのか、読み始めるきっかけを尋ねた結果、「保育士から読む」が最も多く（58%）、つづいて「子どもに頼まれて読む」（32%）であった。「その他」（10%）は、「両方」「自由遊び：子どもに頼まれて読む、活動前等落ち着いた時間をつくるときに多い：保育士から読む」「一対多：保育士から読む、それ以外：子ども、一対一：子ども」と記されており、読み方や時間によっても異なることが窺える。

【結果と考察Ⅱ：保育所の絵本場面への参加行動：3歳未満と3歳以上クラスの比較】

1. 絵本場面への子どもたちと保育者の参加行動

(a) 子どもたちの参加行動：現在担当しているクラスにおける絵本場面での子どもたちの行動

保育所における乳幼児期の絵本場面に関する発達研究

について尋ね、3歳未満クラス（N=28）と3歳以上クラス（N=20）別にt検定を行った結果を示したのが、表3である。

評定値の平均が4（「よくする」）以上の全体として、よく行われていると考えられる項目は、3歳未満クラスでは「絵本を読んでいるときに、子どもが知っている物の名前を言う」「絵本を読むとき、子どもが擬音語や擬態語をまねて声を出す」「絵本の言葉をくりかえして、子どもが言おうとする」「絵本の中の絵を、子どもが指さす」の4項目であった。

表3 クラス別（3歳未満と3歳以上）の子どもたちの絵本場面への参加行動および検定結果

質問項目	3歳未満	3歳以上	t検定結果
1 絵本を読んでいるときに、子どもが知っている物の名前を言う	4.14 (1.38)	4.11 (0.74)	
2 絵本を読むとき、子どもが擬音語や擬態語をまねて声を出す	4.11 (1.34)	3.63 (1.12)	
3 絵本の言葉をくりかえして、子どもが言おうとする	4.25 (1.67)	3.79 (1.03)	
4 絵本の中の絵を、子どもが指さす	4.57 (1.10)	3.74 (0.93)	未満>以上 ***
5 絵本を読んでいるときに、立ち上がって歩いていく	3.18 (1.36)	2.58 (1.07)	未満>以上 *
6 絵本に描かれている小さな絵を発見し、教えてくれる	3.38 (1.58)	3.95 (0.78)	
7 最後まで座って、読んでいる絵本をじっとみている	3.81 (1.27)	4.00 (0.67)	
8 1人の子どもが絵本の中の絵を指さすと、他の子も指さす	3.96 (1.22)	3.68 (0.95)	
9 読んでいるときに、質問をする	2.81 (1.73)	3.37 (0.83)	
10 絵本の中の絵を、手でつかもうとする	3.22 (1.53)	2.47 (1.02)	未満>以上 *
11 絵本の中の絵と、同じ実物を指さす	3.00 (1.52)	2.47 (0.90)	未満>以上 *
12 絵本をなめたり、かじったりする	3.00 (1.30)	1.68 (0.89)	未満>以上 ***
13 絵本を読んでいるときに、出来事の説明をする	2.56 (1.65)	2.79 (0.85)	
14 絵本の中の文字を指さすことがある	2.33 (1.71)	2.32 (0.75)	
15 絵本の中の文字を読むふりをする	2.33 (1.64)	2.95 (0.78)	未満<以上 *
16 絵本の中の絵と、同じ物をとりにいき持ってくる	2.50 (1.63)	1.84 (0.83)	未満>以上 *
17 読んでいる時に働きかけてくる	2.81 (1.14)	2.53 (0.90)	
18 読み終わった後、他の活動へひろがる	2.78 (1.48)	3.26 (0.93)	
19 興味のある絵に注意を向け続ける	3.26 (1.43)	3.11 (0.74)	
20 絵本の中の登場人物などと、同じ身振りをする	3.04 (1.60)	2.89 (0.66)	
21 絵本でみた行動や言葉を、生活の中でしたり、言ったりする	3.04 (0.90)	3.47 (0.90)	

※数字は、平均値（標準偏差）を示す。*** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$ を示す。
t検定結果欄は、有意差が示された項目のみ示し、網掛けして表示した。

そして3歳以上クラスでは、「絵本を読んでいるときに、子どもが知っている物の名前を言う」「最後まで座って、読んでいる絵本をじっとみている」の2項目であった。

次に、3歳未満と3歳以上のt検定の結果、3歳未満クラスの方がよりよくする行動は、「絵本の中の絵を、子どもが指さす」($t=2.79, p<.001$)、「絵本を読んでいるときに、立ち上がって歩いていく」($t=1.69, p<.05$)、「絵本の中の絵を、手でつかもうとする」($t=1.99, p<.05$)、「絵本の中の絵と、同じ実物を指さす」($t=1.99, p<.05$)、「絵本をなめたり、かじったりする」($t=4.08, p<.001$)、「絵本の中の絵と、同じ物とりにいき持ってくる」($t=1.77, p<.05$)であった。一方で3歳以上クラスの方がよりよくする行動は、「絵本の中の文字を読むふりをする」($t=1.69, p<.05$)であった。

以上から、子どもが知っている物の名前を言うことは両クラスともに共通して多くみられるようであるが、3歳未満クラスでは、発声などの言葉（擬音語や擬態語を真似る、繰り返して言う）や指さし（絵）、3歳以上クラスでは最後まで座ってじっとみることが特徴であり、3歳未満クラスでは、絵本の「絵」を指さしたり、手でつかもうとしたり、類似の実物を指さしたり、絵と同じものをもってこること、絵本をなめたりかじったりすること、立ち上がり歩いていくこと、そして3歳以上では文字を読むふりをする事が多く、3歳未満と3歳以上クラスでの特徴および相違が示された。

(b) 保育士の読み方：次に、保育士の読み方について尋ね、3歳未満と3歳以上クラス別にt検定を行った結果が、表4である。

評定値の平均が4（「よくする」）以上の全体として、よく行われていると考えられる項目は、3歳未満クラスも3歳以上クラスでも「絵本を読んでいるときに、子どもたちの顔をみる」の1項目であった。

次に、3歳未満と3歳以上のt検定の結果、3歳未満クラスの方がよりよくする行動であると示されたのは、「読んでいるとき、子どもが声を出すと最後まできく」($t=1.80, p<.05$)であった。一方で3歳以上クラスの方がよりよくする行動であると示されたのは、「絵本を読んでいる間、静かに座っているように声をかける」($t=2.49, p<.05$)であった。

以上、子どもの顔をみて絵本を読むことは共通して多くみられるようであるが、3歳未満には子どもが声を出すと最後まできくのにに対し、3歳以上では静かに座るよう声をかけるという保育士の読み方について、3歳未満と3歳以上クラスでの特徴と相違が示された。

表4 クラス別の保育士の読み方および検定結果

質問項目	3歳未満	3歳以上	t検定結果
1 絵本の言葉を忠実に読む	3.44 (0.80)	3.68 (0.95)	
2 絵本の中の絵を指さしながら読む	3.38 (0.98)	3.47 (0.84)	
3 絵本を読んでいる間、静かに座っているように声をかける	2.93 (1.07)	3.67 (0.91)	未満<以上*
4 身振りや手振りをしながら読む	2.93 (0.96)	2.79 (1.03)	
5 経験したこと等、絵本の内容に追加して話す	2.33 (0.96)	2.53 (1.26)	
6 絵本を読んでいるときに、子どもたちの顔をみる	4.30 (0.87)	4.37 (0.76)	
7 絵本の中の文字を指さし読む	1.85 (0.99)	2.32 (0.95)	
8 読んでいるとき、子どもが声を出すと最後まできく	2.96 (0.76)	2.53 (0.84)	未満>以上*
9 絵本の絵と、同じ実物を指さす	2.78 (1.58)	2.42 (0.77)	
10 絵本を読んでいるとき、子どもに質問する	3.00 (1.57)	2.95 (1.22)	

※数字は、平均値(標準偏差)を示す。*** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$ を示す。

t検定結果欄は、有意差が示された項目のみ示し、網掛けして表示した。

2. 指さし行動

(a) 子どもの指さし行動：子どもが指さすことをみたことがあるかを尋ねた結果、「ある」が98%、「ない」が2%であった。ほぼすべての保育士が、子どもが指さす行動を捉えているようである。

また、「ある」と回答した場合には、子どもがどの場面(絵本場面、積木場面、食事場面、他場面)で指さすかを尋ね、3歳未満と3歳以上クラス別に検討した。結果から、両クラスともに「絵本場面」(3歳未満93%、3歳以上95%)での子どもの指さしを多くの保育士が捉えているようで、「食事場面」(3歳未満81%、3歳以上60%)、「積木場面」(3歳未満56%、3歳以上45%)、「他場面」(3歳未満15%、3歳以上10%)と続くことが示された。他場面として、具体的に記述されていたのは、「遊んでいるとき」「犬や動くもの、光るものなどを見たとき」「自分が知っていて他の子や職員にそれを知らせたいとき」「アリアチョウをみつけたとき」「散歩のとき」「戸外」であった。

絵本場面は、それ以外の場面と比べて、子どもの指さしが多くの保育士に捉えられている場面であることが共通して示された。

(b) 保育士の指さし行動：保育士が指さすことがあるかどうかを尋ねた結果、「ある」が90%、「ない」が10%であった。ほぼ全ての保育士が指さすようである。「ある」と回答した場合には、子どもの指さし同様に、どの場面で指さすかを尋ね、3歳未満と3歳以上クラス別

に検討した。結果から、両クラスともに、「絵本場面」(3歳未満88%, 3歳以上85%)で多くの保育士が指さし、「食事場面」(3歳未満50%, 3歳以上40%),「積木場面」(3歳未満46%, 3歳以上30%),「他場面」(3歳未満17%, 3歳以上20%)の順に指さすことがあると回答したことが示された。「他場面」として記述されていたのは、「子どもが指さしをしたとき」「鳥やヘリコプター、車を見たとき」「よくわからないものがあるとき」「絵の中のもの」「何かに注目させたいとき」「散歩」「戸外」「自然物の変化や発見」であった。

子どもの指さしと同様、絵本場面はそれ以外の場面よりも指さしていると多くの保育士が自分自身の指さしを捉えているようである。

(c) 絵本場面での子どもの指さし対象：絵本を読んでいるときに、子どもが何を指さすのか、その対象(絵本の「絵」、絵本の「文字」、絵本の絵と類似する「実物」)を尋ねた結果、絵本の「絵」は、両クラスともにほとんどの子どもが指さすことが示された(3歳未満:96%, 3歳以上:95%)。絵本の「文字」は、3歳以上の方が多い傾向にあり、8割の子どもが指さすことが示された(3歳未満:61%, 3歳以上:80%)。「実物」への指さしは、両クラスにおいて7割の子どもにみられるようである(3歳未満:72%, 3歳以上:75%)。

両クラス共通して子どもが絵本の「絵」や「文字」だけでなく「実物」も指さすと保育士が捉えており、3歳以上になると「文字」を指さすことが増える傾向であることが結果から示された。

(d) 絵本場面での保育士の指さし対象：絵本を読んでいるときに保育士が何を指さすのか、その対象を尋ねた結果、絵本の「絵」は、両クラスともにほとんどの保育士が指さしているようである(3歳未満:89%, 3歳以上:95%)、絵本の「文字」は、3歳以上クラスの保育士の方が多く指さす傾向が示された(3歳未満:36%, 3歳以上:50%)。また「実物」も指さすようである、3歳未満クラスの保育士の方がわずかに多い傾向が示された(3歳未満:61%, 3歳以上:50%)。

両クラス共通して絵本の「絵」や「文字」、「実物」を保育士が指さし、3歳以上になると「文字」を指さすことが増加傾向にあり、「実物」を指さすことが減少傾向にあることが示された。

(e) 絵本場面での子どもの指さしで印象的であった出来事：絵本場面で印象的であった子どもの指さしについての自由記述をまとめたのが、表5である。

結果、絵本場面での指さしで保育士が印象的であったことは、「絵本世界」の物の絵を発見

表5 絵本場面で印象的であった子どもの指さし

指さし対象	印象的であった指さしの記述例
絵本世界（「絵」：物）	記述1：「自分の知っている物、好きな物（のりものなど）が出てきた時に、「あっ」と言って指さします。」 記述2：「隠れているキャラクター等があると、居場所を教えてくださいとしてその絵を指さしてくれる。」 記述3：「乳児と2回同じ絵本を読んでいると、1回目に出てきた動物を覚えていたようで、指さしながら言っていた。」 記述4：「ワンワン」と犬を覚えたてのころで、犬の本を見ていて、ページをめくるたびに「ワンワン！」と言いながら、犬の絵を指さしていました。
絵本世界（「絵」：物） ⇒現実世界（物）	記述5：「絵本に出てきた動物や生き物を、生活の中で見つけ、指さしていました。」 記述6：「前に読んだ絵本のことだったので、散歩の途中で実物をみると「トラックおんなじ」と覚えていてトラックを指さして「あの絵本のことだね。」と会話につながって楽しめた。」
絵本世界（「絵」：事象） ⇒現実世界（自分）	記述7：「あーんあーん」を読んでいる時、本の中の子が泣いていると自分を指さす。これは自分と同じだと、絵本から逆バージョンで教えてくれました。
絵本世界	記述8：「指さしをしながら、読んでいるこちらを確認するように、目を合わせたとき」

※下線は、指さしを示す。

すること（記述1～4）で、記述2では教えてくれること、記述3と4では言葉の獲得との関連が記されていた。また、「絵本世界」の物の絵から、「現実世界」の物への指さしがり取り上げられており（記述5, 6）、「絵本世界」の事象の絵から「現実世界」の自分への指さしも（記述7）印象的な出来事として記述されていた。また、「絵本世界」を指さし、両者の絵本を中心とした関係が成立したこと（記述8）も指さしに関する印象的なこととして取り上げられていた。絵本世界から現実世界へ、そして指さすことを通して両者の関係を築くことまで、指さしによる広がりや印象的な出来事として取り上げられることが推察される。

3. 立ち上がる行動（実物への指さしとの関連行動）：絵本場面で実物を指さす行動との関連で、子どもが立ち上がり歩き始めたらどのように対応するかを尋ね、自由記述をまとめたのが表6である。

「読み手の保育士」の対応では、「立ち上がり歩いた子どもに働きかける」（52%）が最も多く、つづいて「立ち上がり歩いた子どもを見守る」（18%）、「絵本へ働きかける」（7%）、「他の子どもたちへ配慮する」（4%）であった。また「読み手でない保育士（職員）」が「立ち上がり歩いた子どもに働きかける」（8%）対応も回答された。

表6 絵本場面で子どもが立ち上がる行動への保育士の対応（複数回答あり）

対応する保育士	保育士の対応	記述例	回答数(割合)
立ち上がり歩いた子どもに働きかける	意思を確認する	「もうみないの?」と続きをどうするか子どもに聞く。	3
	座るように言葉かけやジェスチャーをする	言葉かけとジェスチャーを行い「座ってね」と伝える。	14
	子どもの名前を呼ぶ	子どもの名前を読んでみる。	1
	ルールを伝える	お話しを聞く時のルールを伝えています。	3
	アイコンタクトをとる	アイコンタクトを行い、理解できないようだったらそのままにする。	1
読み手の保育士	絵本に注意がむくように声をかける	「ほら見て、ワンワンいるよー」など子どもが興味を持って注意がむくように声をかける。	7
立ち上がり歩いた子どもを見守る	子どもの動きに注意をむける	その先の行動をみます。もしかして絵から何かきづいて、それを知らせるために立ち上がったかもしれないので。	10 (18%)
他の子どもたちへ配慮する	環境を構成する	他の聞いている子どもたちが集中できる環境づくりをするよう心がけています。	2 (4%)
絵本へ働きかける	絵本を読むことをやめる	一気に最後のページにして「ちゃんちゃん♪」と終わらせてみたりする。	3 4 (7%)
	絵本を変える	興味のありそうなテーマの絵本に変えます。	1
読み手でない保育士(職員)	座るように働きかけて一緒にみる(きく)	読み手でないもう一人の保育士が、膝の上に座らせるなどして一緒に聞くようにします。	4
	他の子どもの邪魔にならないように声をかけ、そばについて一緒にみる(きく)	一人の保育士が読んでいる際、子どもについている保育士がそばにいて、他の子が夢中になって絵本を見ているのを邪魔しないように声をかけ、その子にも楽しくみれるようにそばにつき、一緒にみたりしています。	4
	その他	年齢・個々の子ども、状況で対応を変える	手遊びをしたり、その場の状況や個々によって関わり方を変えます。

以上から、「読み手の保育士」と「読み手でない保育士」が対応する場合があります、全体の半数以上を占めるのは「立ち上がり歩いた子どもへ働きかける」ことであった。また「他の子どもたち」や「絵本」へ働きかけることもあることが示された。とくに「立ち上がり歩いた子どもを見守る」対応では、記述例に記されたように、実物への指さしによる共同活動への展開につながる対応であることが回答されていた。「その他」では、年齢や個々の子ども、状況によっても対応を変えることがうかがえる。

4. 3歳未満児との絵本場面 保育所において、3歳未満児と絵本を一緒に読む経験をふまえて、保育士が気づいていることや、考え等の自由記述をまとめたのが表7である（「その他」

保育所における乳幼児期の絵本場面に関する発達研究

表7 保育士が捉えている3歳未満児との絵本場面

3歳未満の絵本場面		記述
絵本場面	読み方	<ul style="list-style-type: none"> ・1対1で読んであげる機会を多く持てるといいと感じているが、園ではなかなか難しい。 ・2～3歳児はともかく、1歳児から集団で絵本をみるのはどうかと思う。 ・0、1歳児は集団よりも、1対1を多くしていくべきだと思う。 ・1対1で読む時間を持つことにより子どもが絵本に興味深くなり読んでほしいという要望が増えた。 ・ゆっくりとひざの上に座って、なるべく一対一での読み聞かせが大事なのではないかと思う。
	読み合うこと	<ul style="list-style-type: none"> ・スキンシップにもなったり、ことばを促すことにもつながっている。
	読み合う関係	<ul style="list-style-type: none"> ・忙しい時間の中でも、絵本を読むひとときは大人も子どももほっとできる心穏やかな時間であってほしいと思います。
絵本	絵本の言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返しの語があるものと真似たり「もう一回」とリクエストする子が多い。 ・擬音、擬態も喜んでいる。 ・長いストーリーになっているものよりも、擬音などの多くでてくるものの方が子どもたちは興味をもってみている。 ・音のひびきの楽しさがあるようです。
	絵本の絵	<ul style="list-style-type: none"> ・文字は少なめで絵が細々していないものほど、よく見ようとする。 ・0、1、2歳は、写真の本が人気。
	絵本の音楽・リズム	<ul style="list-style-type: none"> ・1歳児などは、音楽と一緒に絵本（「はらぺこあおむし」等）、歌があるとわりとよくみる。 ・1歳児クラスですが、歌がまどっていたり、リズムのよい絵本はみんな好んでいます。
子ども	個人差	<ul style="list-style-type: none"> ・興味に個人差があることを感じています。車の本ならよく見ている、他の本は聞いていない等。 ・集中する子と、全く絵本をみない子もいます。
	言葉の発達	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉の理解ができるようになってくると、絵本も集中してみられるようになる。
保育士	保育士の読み方	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本を読む時、しぐさをつけると、一人でも真似て行っている。 ・ゆっくり読みははっきりと読む。また繰り返して言ったり子どもの反応に応えながら話すようにしています。 ・子どもたちが聞き取りやすいように間をあげたり、ゆっくり読むことで伝わりやすくなる。 ・人の話しをきくことがまだ難しい時期ですが、子どもたちがハッとするような演出（声をかえるとか、楽器を使うとか）で、絵本って楽しい！と思ってもらえるのと良いなーと感じています。 ・乳児は言葉を吸収する時期でもあり、聞こえてきたことをそのまま覚えてしまうので、ゆっくり、はっきり丁寧に話すようにしています。 ・ゆっくり強弱をつけて読むようにする。声色を変えて、はっきりと読むようにする。

除く)。

表をみると、保育士は「絵本場面」や「絵本」、「子ども」、「保育士」の観点から、3歳未満児との絵本を読む経験をふまえて記述していた。「絵本場面」に関して、「読み方」では3歳未満児とは1対1で読むことが大事であるが、保育の場では難しいことや、「読み合うこと」はスキンシップや言葉を促すことにつながっており、心穏やかな「読み合う関係」の時間でありたいと記されていた。「絵本」に関しては、「言葉」では繰り返し語や擬音・擬態語に興味を持ち、音の響きを楽しみ、「絵」は細々してなくて写真のようにリアルで、「音楽、リズム」として絵本と同じ歌やリズムがあるものを好むこと、そして「子ども」には興味や集中力に「個人差」

があり、「言葉の発達」によって集中力が高まり、「保育士の読み方」では、しぐさをつけて、ゆっくりはつきり読み、間をあげ、声色を変え、演出する等で、絵本を楽しいと思ってもらいたい等が記されていた。

一方で、絵本を読まない保育所で働く保育士は、次のように記していた。

「保育園では、0歳児クラスから手遊びを取り入れ、2歳児クラスから短いお話に発展させます。素話を一方的に語るというよりは、手振りをつけた手遊びの延長と捉えるとわかりやすいかもしれません。3歳クラスになると、桃太郎のような繰り返しのある昔話へとなります。3歳児以上は、お昼寝に入る前に、約1か月同じ話を素話で繰り返し聞かせます。お話という長さからすると、年齢的に聴けるのは、3歳児以上と考えるからです。挿絵という視覚を使わないので、想像力がふくらみます。個人的には、絵本は3歳未満に読み聞かせるというより、見せるものとして捉え、3歳以上は想像力を働かせて聴かせるものと考えます。3歳未満なら1対1でコミュニケーションをとる道具のひとつとして取り入れるのならよいと思います。」

絵本を読まない保育所があることがわかり、その保育所では発達年齢に応じて、3歳以上になると想像世界が広がることから、素話を繰り返し聞くことにしているとのことであった。実際に絵本を読んではいないが、この保育士自身の絵本に対する考えとしては、3歳未満と3歳以上では発達により、異なる絵本の取り入れ方をすると捉え、3歳未満では1対1でコミュニケーションをとる道具として考えていることが窺える。

【結果と考察Ⅲ：保育所での読書環境】

1. 保育所での読書環境の工夫と子どもの姿や変化：保育所で、絵本を読むときの環境構成の工夫や、その工夫等による子どもの姿や変化に関する自由記述をまとめたのが、表8である。

表をみると、「場」(43%)が最も多く、「読む場を決める」「読む場を変える」工夫があり、「人」(24%)では「保育士・子ども(両者)の位置」「保育士の読み方」「保護者とのつながり」の工夫、「物」(20%)では「周囲に物を置かない」「周囲に絵本を置く」工夫、「その他」(13%)では、時間を設定する等の工夫が記されていた。

また環境を工夫したことによる子どもの姿や変化として、「読む場を決める」と「絵本を手取る子」や「落ち着いて長時間読む子」が増えたり、「子ども同士会話」や「友達同士で並んでページをめくったり」しながら、「集中して楽しむ」ようになったという。また気分や雰囲気気で「場を変える」ことによって、子どもたちが「わくわく」して「集中力」が変わることも挙げられていた。子どもの発達に応じて環境をいかに構成するかについては次のように記さ

保育所における乳幼児期の絵本場面に関する発達研究

表8 保育所での読書環境の工夫（複数回答あり）

	読書環境の工夫	記述例	子どもの姿や変化	回答数 (割合)
場	読む場を決める (絵本コーナーをつくる、椅子、ゴザを置く 静かな場で読む等)	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本コーナーを作り、絵本を読みたい子が落ち着いて読める空間を作っている。 ・絵本コーナーを2歳児クラスで作り、1冊ずつ壁にたてかけるような収納にした。 ・絵本コーナーを作り、椅子を設置した。 ・ブロックなどで遊んでいる近くで本を読む子がいたので、机や椅子を用い、少し離れた場所で絵本コーナーを作ると、集中して読んでいた。 ・静かに読めるよう区切った遊びコーナーを作ったり、図書館と名付け、一か所のスペースを本読みスペースとした。 ・自分で読めるようになったり、友達同士でみるようになったら、じっくり落ち着ける絵本コーナーを保育室の中に区切ってつくるような工夫をしています。 ・絵本を読む空間をつくる。椅子や机を出す。 ・夕方の縦割り保育に椅子を並べて置き、絵本コーナーを設けている。 ・1対多) 絵本に集中し、落ち着いて聞くことができるよう座る場をベンチ椅子等にする ・1対多) 絵本を読むスペースを決める。保育者は椅子。子どもはゴザ。 ・ゴザ等をひいて空間をつくる ・布を敷いて場所を用意、牛乳パックの椅子を並べて座る。 ・階段に座らせて読む。 ・絵本をみる場所を決める。絵本を選びやすいように、本棚の工夫や置く場所をまとめる。 ・できるだけ静かな環境で読むようにしています。 ・静かな環境の中で読むようにしている。 ・なるべくせまく、ひろがりのない空間づくりをして、集中できるようにしている。 ・1人でゆっくりと読める空間を作ってみた。 	<p>⇒なんとなく絵本を手にとる子が増えた。 ⇒落ち着いて、長時間読む子が増えた。 ⇒子ども同士会話をしながらや、字に興味をもったり、他の遊びと交わず集中して楽しめるコーナーになっていまず。 ⇒場所が決まることで落ち着いてみるができる。 ⇒落ち着いてみるが増えたり、友達同士で並んでページをめくったりしていた。</p>	20 (43%)
	読む場を変える	<ul style="list-style-type: none"> ・読む場所は、たいていひとつのコーナーと決めています。その日の気分や雰囲気によって、テラスに出てみたり、廊下で読んだりする。 ・こわい話の時は、部屋を暗くしたことがある。 	<p>⇒子どもたちもわくわく感があるようです。少しいつもと変えるだけで集中力は違います。</p>	
人	保育士・子どもの位置 (両者の位置)	<ul style="list-style-type: none"> ・読むときは、壁側に保育士が座るなど、絵本に集中できるようにする。 ・絵本に集中するように部屋の隅の方で読んだり、後ろ壁にして読むことはあります。 ・背景は何もないところを選ぶ。 ・保育者の背景（何もない、人の往来がない、掲示物がない）。 ・他の活動の様子が見えないよう、子どもたちの向き、配置を考えている・ ・低年齢の1対1の場合は、膝の上で、同じ向きで読みます。 ・乳児のうち、1対1で読む時間を大切に、ふれあいながら読んでいます。 		11 (24%)

菅井 洋子

人	<p>保育士の読み方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本の世界に入れるように声色を変えてよみます。 ・表紙の絵を見せて「これなーに?」「これだーれ?」など興味を向けてから読むと、子どもも興味を示し、じっと見ていた。 ・説明を加える時と、文章を読んでいるときの口調を変えることでわかりやすくしようと思っている。 	
	<p>保護者とのつながり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育園で読んだ本、子どもたちが気に入っている絵本を保護者にも紹介したり、園文庫への利用も働きかけ、親子と絵本をつなげるよう働きかけることもしています。 	
物	<p>周囲に物を置かない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・静かな他の玩具等の刺激が入らないように設定する ・余計なものが子どもの視野に入らないようにする。 ・お話し会のときは、なるべく見える範囲にものを置かない。シンプルな部屋にする。 ・前にごちゃごちゃした環境があったり、刺激のある物があると、子どもたちが集中できないので、できるだけ子どもに入る視覚部分は、すっきりさせて読むよう心がけました。 	9 (20%)
	<p>周囲に絵本を置く (興味、季節、行事等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年齢にあった本を用意して置く。 ・自分で好きな絵本を選ぶように、表紙が見えるように置く等、興味をひくようにする。 ・本の表紙がみえるように置く。 ・季節感のある本を選び、置く。 ・行事や日ごろの出来事、社会状況などに合わせて、絵本選びをして置いておきます。 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・おやつ前等、早く準備のできた子どもが、他児の準備ができるまで待つ時間を、絵本のみ自由にていい時間にした。 ・活動の間に大きな絵本を少しずつにわけて読む。 ・午睡前に子どもの気持ちを落ち着かせるために絵本を読んだら、スムーズに午睡に入ることができる。 ・はじめに手遊びなどで注意をひきつける。 ・読む前の手遊びにこれから読む絵本に関連した手遊びがあれば、できるだけ取り入れる。 ・一対多) どうやったらみんなで見られるか、子どもたちに考えるように話しをしています。 	⇒子ども同士などで絵本をみる時間が増えた。 6 (13%)

れていた。

「乳児のうちは、1対1で読む時間を大切に、ふれあいながら読んでいます。自分で読めるようになったり、友達同士で見えるようになったら、じっくり落ち着ける絵本コーナーを保育室の中に区切って作るような工夫をしています。子ども同士会話をしながら、字に興味をもったり、他の遊びと交わず集中して楽しめるコーナーになっています。また、保育園で読んだ本、子どもたちの気に入っている絵本を保護者にも紹介したり、園文庫への利用も働きかけ、親子と絵本をつなげるよう働きかけることもしています。」

保育所の絵本を保護者に紹介し、園文庫利用も働きかけ、読書環境を保育所から家庭へとひろげていることも窺える。

以上、複数の保育士や子どもたちと読み合う保育所ならではの読書環境の工夫が示され、さらに保育所のみならず家庭へも読書環境を上げ、子どもや親にも影響を与える可能性が示唆された。読書環境構成に関しては、「子どもの状態に応じて変えたり、逆にどんな状態でも一定にしたりいろいろ試行錯誤しました。結果的に、あまりコロコロ変えない方がよいと判断しました」と、読書環境を工夫していることがわかると同時に、変えすぎることはよくないことも、経験から述べられていた。

〔総合考察〕

本論文では、保育所での絵本場面の実態について、保育士への質問紙調査から検討し、とくに3歳未満クラスでの絵本場面の特徴を明らかにすることを目的とした。「保育所の絵本場面の特徴」、および「保育所での3歳未満時期の絵本場面の特徴」を総合的に考察していくことにする。

保育所での絵本場面の特徴：家庭での絵本場面との比較から

まず保育所でどのように絵本と出会っているのか等を検討した結果をまとめると、保育所の絵本場面では、「保育士と子どもたち（1対多）」による「同年齢」集団で、「ほぼ毎日」、「5～15分」くらい「延長保育、食事の後、午睡前」等の決まった時間に、「保育士」が選択した絵本を、「保育士から読む」ことをきっかけに読みあうことが、機会として多くみられることが特徴として示された。

また、保育士や子どもたちが集団で生活する保育所では、保育士と一対一だけでなく、一対多で読みあったり、子どもが一人で読んだり、子ども同士で読みあうというように多様な読み方があり、発達年齢に応じて読み方が多様化していくことが示唆された。これらの読み方、すなわち一緒に絵本を読む相手により、絵本を「読み始めた時期」や「読む頻度」、「読む時間」、「おきまりの時間」、「絵本の選択」「絵本を読むきっかけ」に相違が示され、保育所では多種多様な絵本経験がなされていることが窺えた。

これらの結果をうけ、家庭での絵本場面との比較から、保育所での絵本場面の特徴を考察していくことにする。

まず、保育士と子どもが一対一で読む場合には、3、4ヵ月～1歳頃と早い時期から、絵本を読み始めることが示された。家庭での絵本場面で母子が一対一で読む場合も、同様の結果が示されており（秋田・横山・野澤・菅井、2005）、養育者と一対一で絵本と出会う時期は、家

庭と保育所で共通しているようである。

このように保育所では、まず保育士と絵本をめぐる関係を築きながら絵本と出会い、その後一人で絵本と出会い、子ども同士で絵本を読み合うというように広がっていくことが示されたといえる。すなわち、二項関係において、絵本を読む保育士と子どもが関係を築く時期から、その関係を土台として、三項関係が成立し、絵本を中心とした共同活動を展開できるようになる時期へと進む中で、保育士と複数の子どもたちが一緒に読みあったり、子どもが一人で読んだり、子ども同士で読みあうようになるという発達過程が推察される。保育所では、保育士と読むことを土台として、子ども同士で読む経験へとつながっていくのだと考えられる。

そして保育所では、幼いころから、同年齢の子どもたちで絵本を読むことがほとんどであるが、異年齢の子どもたちで読む機会もあることが示された。このように、同年齢、異年齢の子ども集団で絵本場面へ参加することや、読む相手を変えながら絵本と出会うことは、家庭とは異なる集団で生活する保育所ならではの特徴であるといえよう。

また保育所では、全ての読み方で「延長保育時」「食事の後」「午睡前」が絵本を読む決まった時間であることが示された。このうち「食事の後」と「午睡前」に絵本を読むことに関して、保育士である徳永（2009）は、「わが園では、お昼の食事が終わり、排便排尿を大体の赤ちゃんが済ませ、午睡に入るにはちょっとまだ早いという、11時45分ころが最適だということに行き着いたのです。（…略…）12時の午睡に入るまでのわずか15分のことなのですが、赤ちゃんと保育者たちの絵本を真ん中にしての楽しいかわりの時間となっているのです」と、絵本を読む最適な時間であると自身の長年の経験をふまえて述べている。

それ以外の時間で、保育士と子どもたちが集団で読むのは、集まったとき等であることが示され、子ども同士や子どもひとりで読む機会となるのは、絵本コーナーを設けたとき等で、環境をいかに構成するかが子ども同士の読みを誘引するかどうかに影響を与えることも示唆された。また、保育士が他の準備や着替えの援助をしている時に待っている間が、一人で読んだり、子ども同士で絵本を読む機会になっていることが示された。保育士と子どもが対面で読む機会は、自由遊び等一人ひとりの子どもと関わるができる時であることが示された。家庭では対面で読むことが多いのに対し、家庭とは異なり、保育所では誰と一緒に読むのかということが時間で異なり、絵本場面を構成する関係を築く上でも様々なことが関連していることが示された。

以上、保育所での絵本場面の実態として、家庭の絵本場面と共通しているところもあるが、保育所では多様な人と関わりながら絵本に出会っていくという読み方があり、共同で読み合う相手により、絵本との出会いの時期や頻度、時間等が異なることが示唆され、保育所ならではの

の経験をしていることが明らかになった。今回の調査から示された結果と、家庭の絵本場面との相違から、保育所ならではの絵本場面の特徴が推察された。

保育所での3歳未満クラスの絵本場面の特徴：3歳以上クラスの絵本場面との比較から

保育所での3歳未満クラスと3歳以上クラスの絵本場面を比較した結果、3歳未満クラスの子どもの行動については、「言葉」を十分に話すことも読むこともできない時期であるが、絵本を読んでいる間に、「手」で絵や実物を指さしたり、絵をつかもうとしたり、「口」で絵をなめたり、絵本をかじったり、「足」で立ち上がり歩いて、絵と同じものをとりにいき持ってくる等、身体全体を使って能動的に絵本に働きかけ、絵本場面へ参加している子どもの姿が、保育士の回答から浮かび上がった。

保育士の読み方については、3歳以上クラスでは絵本を読んでいる間、静かに座っているように声をかけるのに対し、3歳未満クラスでは読んでいるときに、子どもが声を出すと最後まで聞くというように、子どもの能動的な働きかけに保育士が応じることが特徴として挙げられ、3歳未満と3歳以上クラスの絵本場面での対応の仕方を変えていることが示された。絵本場面で静かに座ってきく3歳以上時期と、3歳未満時期は質的に異なることを保育士も捉え、実践していることが回答から推察される。

絵本場面への参加行動としての「指さし行動」では、他場面よりも絵本場面での子どもと保育士の指さしが多いと捉えられていることが示された。これは、家庭での積木場面と比較した絵本場面研究（菅井・秋田・横山・野澤，2010）と同様の結果が得られ、保育士も場面による相違を捉えていることが窺える。

さらに、注意を向け合う対象を検討した「指さし対象」では、絵本の紙面上の絵や文字だけでなく、実物を子どもも保育士も指さすことが捉えられており、3歳未満と3歳以上の時期では、注意を向け合う対象が変化する可能性が示された。

指さしで印象的だったことでは、絵本場面での指さしだけでなく、絵本世界から現実世界へ広がっていくこと、そして日常生活の中の指さしが、絵本とつながっていること等が、印象的な出来事として挙げられていた。絵本場面へ一緒に参加する両者だからこそ、言葉を伴わずに指さしたときでも、指さした対象から、一緒に読んだ絵本との関連で相手の意図していることを理解し、やりとりすることができるということが、両者の喜びにもつながっているのだと考えられる。

これまでに家庭での乳児期の絵本場面の特徴として、絵本の挿絵と類似する周囲の実物を指さし、読書環境を拡げながら絵本場面を楽しむことが指摘されている（菅井，2009，菅井・秋

田・横山・野澤, 2009)。さらに保育所では、絵本の挿絵との類似性から、実物を指さすばかりでなく、周囲の壁面等の「絵」を指さすことが示唆されている(菅井, 印刷中)。保育所では、場や物や人の観点から読書環境構成の工夫がなされていることが示されたが、とくに周囲には物を置かないことなども挙げられていた。周囲に物を置かないと記述されていたことと、実際の実物の指さしによる共同活動の展開については、今後読書環境構成の観察等を通して対象となる実物や出現時期等を詳細に解明していくことが必要である。

さらに、乳児期の絵本場面で実物を指さすことや読書環境を構成することと関連して、重要な役割を果たす「立ち上がる行動」への保育士の対応では、子どもに座るように働きかけることが多いことが示されたが、子どもの姿を見守る対応や、読み手でない保育士が対応すること等も、挙げられた。子どもが絵本場面で立ち上がった時に、実際に養育者がどのように対応するかによって、その後どのような共同活動が展開するのか、例えば実物への指さしによる共同活動のように、共同で読み合う楽しみを味わうことにつながるのかに影響を与える。保育所での特色を明らかにしながら、子どもの発達に応じていかに対応し、読書環境を構成するのかを検討していくことは、子ども理解にもつながる重要な観点であると考えられる。

以上、3歳未満クラスの共同注意場面としての絵本場面への参加行動である指さし行動や、注意を向け合う指さし対象、実物対象への指さしによる共同活動に関連する子どもの立ち上がる行動への保育士の対応等の特徴や、読書環境構成の工夫等から、保育所での3歳未満時期の絵本場面の特徴が示唆された。

さいごに

本論文では、保育所における3歳未満クラスの特徴を、保育士への質問紙調査を分析することにより検討した。保育では、領域「言葉」で「絵本」についての記述がなされているが、乳児保育において絵本がどのように位置づけられるのか十分に検討されておらず、絵本は子どもの想像力との関連で語られることが多い。3歳未満は、人間発達の起源の時期であり、その後の発達にも影響を与える重要な時期である。本論文で示されたように、絵本場面で、前言語期である3歳未満時期に、実際に自分の身体を用いて絵本世界と現実世界を行き来しながら関わることを楽しむ経験を繰り返しながら、その後、言葉を中心とした想像世界へ進んでいくことが大切なのではないだろうか。子どもの表象機能の発達との関連から、想像世界や空想世界で楽しむ言語期以前に、現実世界との関係の中で絵本を全身で楽しむことの理解を深めていくことが、今必要とされていると考える。

このことに関連して保育では「人、物、場などの環境が、相互に関連しあい、子どもの生活が豊かになるように、計画的に環境を構成し工夫」しなければならないといわれるが、具体的に絵本場面でどのような環境を構成することが必要であるのかについては検討されていない。3歳未満時期に子どもが立ち上がる行動へいかに対応し、現実世界にまで注意を向け合い、共同注意場面を構成するのか、読書環境という視点から考えると、なぜ環境を構成することが重要なのか、根本的な問いを問いなおすきっかけとなる行動であるといえよう。保育環境として、絵本場面を含む場面毎にその特徴をふまえ、子どもの発達との関連から工夫することが、より豊かな遊びや生活につながる事が予測される。立ち上がる行動への対応から、子どもに「働きかける」だけでなく「見守る」ということも、保育者の援助として大切なことであるということが本結果からも示されたといえるであろう。

保育士は実践する中で、3歳未満時期の絵本場面の特徴を捉えながら、様々な工夫をしている様子が窺え、今後の研究に多くの示唆と見通しが得られた。本論文での保育士への調査研究の結果をうけ、保育所で実際にどのように絵本場面へ参加しているのか、また発達に応じた読書環境構成の提案等を、保育所での絵本場面観察データを詳細に検討し解明していくことが今後の課題である。その際、今回検討した3歳未満と3歳以上時期に焦点をあてること、また3歳未満でもいわゆる9ヵ月革命といわれる前後の時期である二項関係から三項関係への移行期の発達過程等のクリティカルポイントに焦点をあて、絵本場面において絵や文字、実物を含む絵本との出会いについても今後検討していく予定である。

〔引用文献〕

- 秋田喜代美・横山真貴子・野澤祥子・菅井洋子, 2005, 「杉並区ブックスタートパイロット研究：赤ちゃん絵本との出会いに関する縦断研究」, 『平成14-16年度NPOブックスタート委託助成研究報告書』
- Fletcher, K.L., & Reese, E. 2005. "Picture book reading with young children: A conceptual framework". *Developmental review*, 25, pp.64-103.
- 厚生労働省, 2008, 保育所保育指針〈平成20年告示〉
- 菅井洋子, 2009, 「乳児期の絵本場面における母子の共同活動に関する発達研究：共同注意の指さしからの探究」, 『日本女子大学博士学位論文』(未公開)
- 菅井洋子, 印刷中, 「乳児期の読書環境構成に関する発達研究：絵本場面における実物への指さしを中心として」, 『発達研究』
- 菅井洋子・秋田喜代美・横山真貴子・野澤祥子, 2009, 「乳児期の絵本場面における母子の実物への指さしをめぐる研究」, 『読書科学』, 52(3) pp.148-160
- 菅井洋子・秋田喜代美・横山真貴子・野澤祥子, 2010, 「乳児期の絵本場面における母子の共同注意の指さしをめぐる発達の变化：積木場面との比較による縦断研究」, 『発達心理学研究』, 21, pp.46-57,

菅井 洋子

徳永満理, 2009, 「赤ちゃんにどんな絵本を読もうかな：乳児保育の中の絵本の役割」, かもがわ出版

Tomasello, M. 2003. *Constructing a language*. Cambridge: Harvard university press.

Tomasello, M. 2008. *Origins of human communication*. US: MIT Press.

〔謝辞〕

調査にご協力下さいました保育士の方々へ、心より御礼申し上げます。調査や研究におきまして、日本女子大学大学院の岩崎洋子教授、東京大学大学院の秋田喜代美教授にご教授いただきましたこと、深く御礼申し上げます。

なお本調査は、財団法人 発達科学研究教育センターの助成を受けてなされた研究である。